

2021年度

事務局だより

NO.8 (通算 NO.16)

2021・7・20

一般社団法人

示現会



○ 巡回展報告
* 和歌山展 ・徳島展

裏面 ○＜特集＞ 作品の解説
○＜特集＞ 作品研究会について

緊急事態宣言の中、オリンピックが始まりました。ワクチン接種も進んでいるとは思いますが、感染はおさまる気配がありません。このような中ではありますが、巡回展が開催され、終了したところから報告が届いています

巡回展報告

和歌山展

本年の和歌山巡回展はコロナ禍での開催となり 6月2日(水)～7日(月)の会期で和歌山県民文化会館ともよく話し合い 安心・安全への配慮の上 実施を致しました。

昨今の状況を考え本年は「無料展」として実行する旨の決断をし、お客様をお迎え致しました。

幸いにも予定よりやや少なくはありましたが 示現会ファンの方々中心に知人等が観覧に来られ「久しぶりにゆったりとした良い気分になりました」等 感謝を告げられ主催者側としては充実した意味の有る素敵な展覧会になった様に思います。

また 絵はがき・画集の売上はすべて「コロナ医療対策救済金」として 後援の新聞社を通じて寄付する事を決め 先日新聞社に寄託して参りました。

最後に 本部役員の方々を始めとしてお世話になりました関係各位の皆様にお礼を申し上げます。

和歌山支部長 中村恵伍



巡回展は、計画通り、順次開催されており、それぞれ、コロナの対応に苦慮しながらも皆様のご尽力で素晴らしい展覧会になっております。現在のところ支部の関係者については、感染の報告はありませんが、油断せず、十分な注意をいたしましょう

毎日新聞の記事より

示現会和歌山が医療支援金寄託 美術団体「示現会」和歌山支部(中村恵伍支部長36人)が16日、コロナ対策医療支援金として、毎日新聞大阪社会事業団に7万2200円を寄託した。和歌山市の県民文化会館で25・7日、巡回展を開催。会場では販売した絵はがきや画集の代金全額を毎日新聞和歌山支局に預けた。

何とか巡回展の開催に至りましたがコロナ禍での医療現場では医療従事者の方々の並々ならぬ努力があり 救命活動が行なわれております。我々の出来る事として新聞社の社会事業団が行なっている医療従事者への寄付活動を決めました。ご来場いただいた方々に 絵はがき・画集の売上すべてを寄付する内容の看板を出して協力を求めたところ、今回は絵はがき422枚・画集15冊のご協力を得ることが出来ました。会期終了後に、毎日新聞社に寄託を行なうて参りました。和歌山支部では、過去に阪神淡路大震災・東日本大震災・熊本地震災害等、時々に寄付を行なうてきましたが、今回もそれらに続く活動となります。 2021・6・24 和歌山支部 事務局 田中忠雄

徳島展

第74回示現会巡回徳島展は新型コロナウイルス感染症禍の中、準備から開催終了時まで、すべてにコロナ感染を意識し終日注意を払う開催となりました。例年なら雨の多い時期ですが、期間中一度も雨に見まわれることなく天候に恵まれた開催となりました。

今回は特に入場を助長する周知はできるだけ避け、支部会員の口コミ等と増量の招待券の配布により展開しました。

入り口では大型スタンド型検温器を設置し検温専用の担当者を配備するなど特に注意を図りました。

前回開催よりは、入場者が少し減りましたが、1100人を超える入場者があり、開催中各終日にわたり入場者が途切れることなく、落ち着いた展覧会となりました。また併設の公募示現会徳島支部交流展も同様に多くの方にご覧いただきました。

読売新聞の記事より

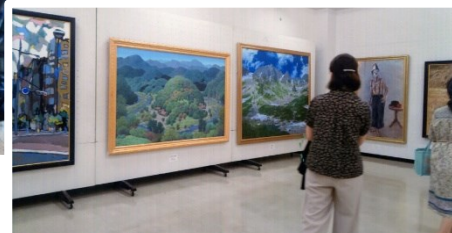
徳島支部長 中本森八

徳島市のあわぎんホール。一般200円、小中学生無料。巡回基本作品展に加え、県会議員や一般作品で入選した油彩画、水彩画作品80点を展示。問い合わせは示現会徳島支部(090・11002・4278)。

「示現会巡回徳島展」から成田 田中 一川の見える風景



◆第74回示現会巡回徳島展 11・15日、午前9時～午後5時(最終日は午後4時半まで)。



巡回展の予定

名古屋展 7月13日～7月18日(終了)

青森展 7月28日～8月1日(終了)

京都展 8月31日～9月5日

<京都市京セラ美術館>

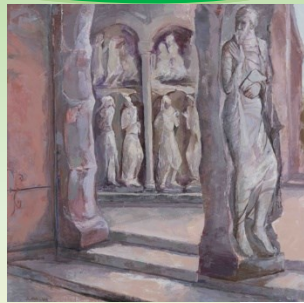
長岡展 10月10日から10月16日

<長岡市美術センター>

特集1

作品解説

74回展で出品された役員の作品を作家自身の解説で事務局だよりのN06,7,8の3回に分けて特集として掲載しました
それぞれがどのように作品として制作に取り組んだのが良くわかるのではないのでしょうか
これらの作品は巡回展でも見ることができます



ロマネスク回想

中川澄子(常務理事)

フランス南西部の小さな街、モアサックのサン・ピエール修道院には、私が魅せられた素晴らしい回廊、数々の彫刻が千年の刻を越えて存在し感動を与えてくれます。

作品は、巨大な正面入り口の内部より中央柱に刻まれた聖パウロ像と、入口外部壁面に刻まれた動的で寓話的レリーフ像の数々を同一画面に、外光を入れて描き良いと思いました。実際の聖パウロ像はかなり柱の上方に刻まれてますので画面構成しました。

佐藤祐治(常務理事)

ローマから直線距離にして約100km、トスカナ州の南部に今回の作品の場所となるピティリアーノがある。

岩の上にそびえたち、凝灰岩の文明といわれる街の歴史は古く、紀元前の青銅器時代から人々が居住し始め、新石器時代の人の足跡の残る街としても知られている。

取材については前もっていろいろと調べては行くが、実際その場に立つと、迫力と、人々の歴史が感じられ、そのたまたまに息をのむ。

今回の作品は前回72回展に出品した場所から右側に移動したところから見た構図となる。

制作にあたっては、先ずキャンバスに暖色系で三度下塗りをする。絵の具はダンマル樹脂を混ぜたオイルを使い薄塗り度何度も塗り重ね色合いを整えていく。長い歴史に刻まれた石の重みの表現に苦心しました。



崖の村

武敏夫(理事)



薄ら日の森

最後の峠を越えると、あとは長い下りの山道、久々に取れた休暇の一日、前夜の夜行列車の睡眠不足も下りの峠道では忘れさせてくれる。足に纏わりつく熊笹が、今年は腰まで伸びて山菜採りに農家の人たちが、この山奥までには近頃は来ない。時折足元から飛び立つ山鳥に驚かされながら、一人一人会わない自然の素晴らしさを満喫し、小鳥の囀りも遠のき薄ら暗い樹林の中を暫し足を運んだ。湿度の高い見通しの悪いこの手の道は苦手で見通しも悪く、何度歩いていても好きになれない。最後の樹林を抜けると、元の日差しが戻ってきて背中が薄ら日の森、そして前は優しい日差しの美しい山々、朝から登りの急登、絶壁の続く蟻の瀬渡り、長い尾根道と続いた登山道にと、大自



桜咲く(不忍の池)

土田恒夫(理事)

今回「示現会展」に「桜咲く」という画題で出品した不忍池の絵は、私の小学生の頃からずっと親しんできた場所なので、いつか描きたいと思っていました。そして、この度描いているうちに当時のことが走馬灯のようによみがえってきました。私は当時日暮里に住んでいて小学校生活を送っていましたので不忍池は友人達とちよつと足を延ばしていく贅沢な遊び場となっていました。又お花見の時期には自宅から歩いて桜咲く谷中の墓地の五重塔。今は火事でなくなっておりすが、を眺めながら上野の不忍池まで花見によく行っていました。そんな昔のことを思い出しながら描いてみました。



「事務局だよりのNo.7で、作品解説をしてくださいました、「大淵繁樹」理事の名前が「大淵」となっていました。お詫びして訂正します。

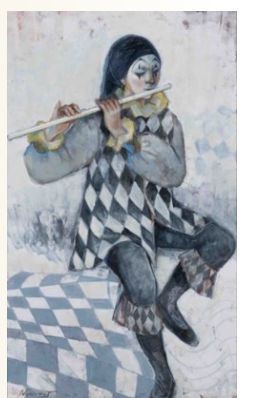
研究会

7月の研究会は68名が参加し、成田理事長始め、井上、中川、佐藤、錦織の各常務理事が講師としてそれぞれの作品を講評しました
8月の研究会は前回と同じリモートになります。8月9日(月)が締め切りです

< お願い >

- 作品の説明は出来るだけ短く簡潔にお願いします
- 日展に出品されます方はその旨お知らせください
- 日展に出品される方は出来るだけ、9月の作品研究会にも参加ください
(9月の締め切り 9月13日)

徳田則子(理事)



調べ

子供の頃、人形に囲まれていた私が、絵を描くようになった時それらは自然とモチーフになっていった。大人になってアンチグッドールにあらがれ、粘土から型取りをするビスグッドールを何体か作ったりした。やがて周りの要望もあり人形にオルゴールをつけた太鼓を叩くもの、バイオリンを弾く人形、その他陶器のバレエ人形等楽しい仕事であった。その頃から友人、知人が海外のお土産に、色々な人形をプレゼントしてくれるようになった。小熊を抱えたドイツの少女、スペインの大きな帽子の少女、中国の平らかな布製の人形、パリで求めた箆にまたがった魔女が2体、私がプラハで求めたビーズで飾られた人形は、沢山の人形の中で問いかけるような眼差しの人形を選んだ思い出がある。これらの人形は皆の思い出と共に今もモチーフとなっている。



冬麗

三杉和子(監事)

桜樹の魅力にとりつかれて一十年。花の咲く桜ではなく、冬の厳しさに耐える老樹が良い。春に向けてエネルギーを溜め、寒風に立つ。しかし枝は自由な形に広がり、空間を謳歌している姿。私の好きな樹形。

この絵の桜樹は山梨で取材した。出会いに感謝し、泊まり込みでスケッチし、思い出深い樹となった。周囲の風景と共に私の心象を表す。

皆さんからの一言を募集中です。自粛生活のこと、絵のこと、地域の様子など、お知らせください。

メール先 佐藤祐治宛 1941sato@gmail.com

なお、示現会のホームページの「メールでのお問い合わせ」でも投稿できます

